

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、男ありけり。女のえ得<sup>①</sup>まじかりけるを、<sup>A</sup>年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「<sup>B</sup>かれは何ぞ。」と、<sup>1</sup>なむ男に問ひける。行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡籙を負ひて戸口に居り。はや夜も明け<sup>2</sup>なむと思ひつつ居たりけるに、鬼はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴る騒ぎに。<sup>3</sup>え聞かざりけり。やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。足ずりをして泣けどもかひなし。

白玉か何ぞと人の問ひ<sup>②</sup>しとき露と答へて消えなましものを

これは、二条の後の、いとこの女御の御もとに、仕うまつるやうにて居たまへりけるを、<sup>4</sup>かたちのいとめでたくおはしければ、盗みて負ひて出でたりけるを、御兄人堀河の大臣、太郎国経の大納言、まだ下藤にて内裏へ参りたまふに、いみじう泣く人あるを聞きつけて、とどめて取り返したまうてけり。それを、かく<sup>I</sup>とは言ふなりけり。まだいと若うて、<sup>E</sup>後のただにおはしけるときとや。

問 二重傍線部①・②の助動詞の意味を、それぞれ答えよ。 知

答 ① 打消推量 ② 過去

問 波線部1・2の「なむ」と同じものを、それぞれ選べ。 知

- ア もと光る竹なむ一筋ありける。      イ 日もすでに暮れなむとす。      ウ 願はくは花の下にて春死なむ  
エ いっししか梅咲かなむ。              オ はやく去なむとて、

答 1 ア 2 エ

問 傍線部Aはどのようなことを言っているのか。最も適当なものを、次から選べ。 思

- ア 女のもとを離れて暮らしていた男が、何年か経つてようやく女の前に姿を現したということ。  
イ 愛する女への恋心を諦めきれないでいた男が、何年もの間ずっと求婚し続けてきたということ。  
ウ 自分の思いを女に告げられなかった男が、年とともに女への愛情を口にするようになったということ。  
エ 苦心の末にやっと愛する女と結婚することのできた男が、ずっと幸せに暮らしていたということ。  
オ 周囲から警戒される中、男と女が長年こつそりと男女の関係を持ち続けてきたということ。

答 イ

問 傍線部Bの指すものとして最も適当なものを、次から選べ。 思

ア 男 イ 川 ウ 露 エ 鬼 オ 蔵

問 傍線部 C・D を、それぞれ現代語訳せよ。思

答 ウ

問 本文中の和歌について、次の問いに答えよ。

答 C 聞くことができなかった。 D 容貌がとても美しくていらつしやったので、

(1) 「消えなましものを」を現代語訳せよ。思

(2) 和歌に込められた男の心情として適当でないものを、次から選べ。思

ア 悲嘆 イ 悔恨 ウ 自責 エ 絶望 オ 屈辱

答 (1) 消えてしまえばよかったのに。 (2) オ

問 空欄 I に入る適当な言葉を、本文中から抜き出せ。思

答 鬼

問 傍線部 E とはどういうことか。最も適当なものを、次から選べ。思

ア 后が入内前の臣下の身分でいらつしやったとき。 イ 后がただ部屋でくつろいでいらつしやったとき。

ウ 后に求婚者がたくさんいらつしやったとき。 エ 后になってしばらく待っていらつしやったとき。

オ 后が物心もつかない子供でいらつしやったとき。

答 ア

問 文章を読んだ後に、五人の高校生がそれぞれ感想を述べ合った。明らかに読み誤っているものを、次から選べ。思

ア 「年を経てよばひわたりける」に、男の愛情の強さが表れているよね。だから結末がかわいそう。やつと一緒になれたのに。

イ 「からうじて盗み出でて」という部分にも同じ効果があると思うわ。簡単に駆け落ちできたのでは、物語も台無しって感じ。

ウ 「はや夜も明けなむ」と思っているのに、「やうやう夜も明けゆく」のはじれったいね。待つ時間というのは残酷だよな。

エ 「男」が「あばらなる蔵」をわざわざ選んだのはなぜ？ 武器を背負って番をしているから、鬼がいそうなのはわかっていたんだろうし。「女」がかわ

いそうじゃない？

オ 「女」はもちろんかわいそうだよ。「女」も「男」に対して愛情を持っていたみたいだしね。でも、やっぱり作者は「男」の思いを中心に描いてるんじゃないかと思うな。

答 エ

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、右近の中将在原業平といふ人ありけり。いみじき世の色好みにて、世にある女のかたちうるはしと聞くをば、宮仕へ人をも人の娘をも見残すなく、<sup>A</sup>数を尽くして見むと思ひけるに、ある人の娘の、かたちありさま、世に知らずめでたしと聞きけるを、心を尽くして、いみじく懸想しけれども、「やむことなからむ婿取りをせむ。」と<sup>B</sup>言ひて、親どもの、めでたくしづきければ、業平の中将、力なくしてありけるほどに、いかにしてかかまへけむ。<sup>C</sup>かの女をひそかに盗み出だしてけり。

それに、たちまちに率て隠すべき所のならければ、思ひあつかひて、北山科のわたりに、古き山庄の荒れて人も住まぬがありけるに、その家の内に大きな校倉ありけり。片戸は倒れてなむありける。住みける屋は板敷きの板もなく、立ち寄るべきやうもなかりければ、この倉の内に畳一枚を具して、この女を具して、率て行きて伏せたりけるほどに、にはかに雷電霹靂してのしりければ、中将、大刀を抜きて、女をば後ろの方に押しやりて、起きあてひらめかしけるほどに、雷もやうやく鳴りやみにければ、夜も明けぬ。

しかる間、女、音もせざりければ、中将あやしみて見返りて見るに、女の頭の限りと、着たりける衣どもとばかり残りたり。中将、あさましく恐ろしくて、着物をも取りあへず逃げて去りにけり。

それより後なむ、この倉は人取りする倉とは知りける。しかれば、雷電霹靂にはあらずして、倉に住みける鬼のしけるにやありけむ。しかれば、案内知らざらむ所には、ゆめゆめ立ち寄るまじきなり。いはむや、宿りせむことは思ひかくべからずとなむ語り伝へたとや。

『今昔物語集』

問 波線部 1・2 をそれぞれ文法的に説明せよ。 知

答 1 打消の助動詞「ず」の連体形 2 完了の助動詞「ぬ」の終止形

問 傍線部 A とはどのようなことか。わかりやすく説明せよ。 思

答 業平が、美人はすべて自分の妻にしようと思ったということ。

問 傍線部 B の主語を答えよ。 思

答 親ども

問 傍線部 C 以降の出来事の説明として適当でないものを、次からすべて選べ。 思

ア 盗み出した女の隠し場所を求めて、業平は北山科あたりにある古い山荘へと向かった。

イ 山荘の母屋は片方の扉が外れ、板敷きの板もなかったので、業平は女を倉へと連れて行った。

ウ 倉の中で雷が鳴り響いたので、業平は鬼の仕業だと思い、大刀の刃を光らせて警戒した。  
エ 女を倉の奥の方に据えておき、雷が鳴り止むまで業平は一晚中寝ずの番にあたっていた。  
オ 業平は夜の間に女が鬼に食われたのに気づくと、残されていた女の着物を持って逃走した。

問 以下は『伊勢物語』『芥川』とこの文章を比べ読みした後の教室での会話である。空欄Ⅰに入れるのに最も適当なものを後から選べ。思

答 イ・ウ・オ

教師——『伊勢物語』と『今昔物語集』は、同じ事件を扱っていますが、その書きぶりはまったく異なっています。その違いについて話し合ってみましょう。  
生徒A——まず、主人公の名前が違うよね。『伊勢物語』は「男」なのに、『今昔物語集』は「在原業平」という実在の人物名になっている。

生徒B——女を盗み出すまでの経緯にも違いがあるね。『伊勢物語』は一人の女性への純愛を貫いた結果という描き方なのに、『今昔物語集』は手当たり次第に美人を口説いた後のことになっていて、何か嫌な感じ。

生徒C——見してわかる大きな違いは、和歌の有無じゃないかな。あと、女について、『伊勢物語』では「鬼はや一口に食ひてけり」「率て来し女もなし」とさうと書いているのに、『今昔物語集』は「女の頭の限りと、着たりける衣どもとばかり残したり」と具体的に恐ろしい描写がしてあるよ。

生徒D——私は文章の結びに注目してみたよ。『伊勢物語』は歴史的な事情を後付けして種明かしをしているけど、『今昔物語集』は教訓っぽい言葉で結ばれている。それにしてもこの教訓、あまりにドライというか、そういう結びでいいの？ って思わない？

教師——みなさんそれぞれよい指摘をしてくれました。

Ⅰ

ア 『伊勢物語』は和歌を中心としたロマンチックな物語として書かれており、『今昔物語集』はリアルで教訓的な説話として書かれていることがわかったと思います。歌物語と説話というジャンルの違いがいたるところに表れていますね。

イ 『伊勢物語』は地の文と和歌が融合した完成度の高い文学となっているのに、『今昔物語集』はいたずらに怖がらせるだけの作品になっていることがわかったと思います。やはり和歌の有無で文学的価値の差は明らかにするのですね。

ウ 『伊勢物語』は最後に種明かしをするミステリー小説のような趣があり、『今昔物語集』は創作要素を排除したノンフィクションのようなリアリティーがあることがわかったと思います。今も昔も、文学にはさまざまなジャンルがあるのですね。

エ 『伊勢物語』は鬼は実際には存在しないと否定しているのに対し、『今昔物語集』は鬼の存在を肯定している点が対照的であるということがわかったと思います。同じ事件でも作者の信条によって、こんなにも書きぶりが異なってくるのですね。

オ 『伊勢物語』は男と女の純愛と逃避行に単純化されている一方、『今昔物語集』は男の恋愛遍歴も細かに描き、より多面的な描かれ方をしていることがわかったと思います。文学も時代を追うごとに完成度が高まっていくのですね。

答 ア